

高等学校【芸術（書道）】正解・解答例

1

- (1) ①、②、④
- (2) ① ICT ② 個別化 ③ 個性化
- (3) ① 字形 ② 表現効果 ③ 線質
- (4) ① 用途 ② 感興 ③ 創造的

配点：(1) 2点、(2) 2点×3、(3) 各2点×3、(4) 各2点×3

20点

2

- (1) 美 (2) 台 (3) 遠 (4) 堂

配点：各4点×4

16点

3

- (1) 当仁者得意忘言
- (2) いまは、やこひしなましをあひみむとたのめしことぞいのちなりける

配点：各8点×2

16点

4

- (1) 李太白憶旧遊詩卷、北宋時代、黄庭堅
- (2) 光定戒牒、平安時代、嵯峨天皇
- (3) 針切、平安時代、伝藤原行成
- (4) 孟法師碑、唐時代、褚遂良
- (5) 正倉院万葉仮名文書、奈良時代
- (6) 馬王堆帛書、前漢時代
- (7) 大孟鼎、周時代
- (8) 石門頌、後漢時代

配点：(1)～(4) 作品名4点、筆者3点、時代3点、10点×4

(5)～(8) 作品名4点、時代3点、7点×4

68点

- 5 書も古人の（書に反映している）意趣にのっとっているのがよく、古人の字跡を真似ているのは（本当の）巧みではない。

配点：10点

10点

6

- (1) 名称：波磔
説明：隷書において、収筆を右に大きく弧を描くように払う用筆のこと。
- (2) 読み方：しんかん
説明：天皇の筆跡のこと。
- (3) 江戸時代初期の能書、近衛信尹・本阿弥光悦・松花堂昭乗の三人のこと。戦乱の世を経て沈滞した書の世界に、伝統に縛られず自由な表現を求めて新たな息吹をもたらした。

配点：(1) 名称2点、説明3点、(2) 読み2点、説明3点、(3) 5点

15点

7

作品名 牛橛造像記

時代 北魏時代

指導の過程 まず、直感的鑑賞を各自で行い、それをもとにして1枚書かせる。その後、楷書の成立過程における北魏の位置づけを説明する。その際、龍門石窟の刻法によって生じる独特の点画や字形のありようを確認する。特に「方筆」や「方勢」による力強さや重厚感を理解させる。

また、起筆や収筆を強調して点画を鋭角的に書くことや、横画を右上がりを書くこと、字形は重心を低く構えること、強調された左右の払い、転折部は厳しく折れること、古典特有の力強さや重厚感を表現するための筆の動かし方などを重点的に指導したい。

評価の観点

知識・技能 評価規準

【知識（表現）】

- ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。

【知識（鑑賞）】

- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。

【技能】

- ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、牛橛造像記（北魏時代の楷書の古典）の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。

思考・判断・表現 評価規準

【思考・判断・表現(表現)】

- ・楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。

【思考・判断・表現(鑑賞)】

- ・牛橛造像記（北魏時代の楷書の古典）の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。

主体的に学習に取り組む態度

【主体的に取り組む態度（表現）】

- ・楷書の古典の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

【主体的に取り組む態度（鑑賞）】

- ・牛橛造像記（北魏時代の楷書の古典）のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。

配点：作品名 3 点、時代 2 点、指導の過程 6 点、

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度 各 8 点× 3

35点